



アスリートのコトバ



@ ssu bonita

静岡 SSU ボニータ ゴールキーパー

みずぐち まゆ
水口茉優 選手

パッション 「passion」

私が大切にしている言葉は「passion（情熱）」です。この言葉は、ただ「熱くなれ、気合を入れろ」という意味ではなく、“もっと良くなれる”という確信に近いものです。

生きていく中で、誰にでもミスはあります。うまくいかない日もあります。しかし、それで終わりではありません。そこから始まりです。「次はどうする？」と自問できる自分でありたいです。

ゴールキーパーは、たった一つのプレーで試合の流れを大きく変えられるポジションです。だからこそ毎日、自分の課題から逃げずに向き合い続けます。昨日できなかったことを今日できるようにする。今日できたことを、明日は当たり前にする。その積み重ねが、土壇場で自分を裏切らない強さになります。

そして何より、応援してくださる方々の思いが、私を奮い立たせてくれています。声、拍手、言葉。その一つ一つが「まだまだ行ける」と背中を押してくれる。

私はその想いを原動力に、どんな状況でもブレない、強くたくましいゴールキーパーであり続けます。今シーズンも最後の砦として、ボニータを優勝へ導けるよう、全身全霊でゴールを守り抜きます。

題名の標語は市の職員が考え、全員の名札に掲げられています。職員の日々の仕事に向き合う姿勢を示すものであり、私にとっても2期目の市政を支える大切な指針です。

本市は、合併から20年を迎えました。旧市町村の歴史や地域を大切にしながら、市民生活を支えてきた多くの職員がいます。20年経過する中で職員の年代構成に偏りが生まれ、現在50代が約36%を占めています。10年後には合併期を支えた職員が一斉に退職期を迎えるため、知識や経験の継承が大きな課題となっています。

こうした中でありながら、増加する社会課題に対応するため市の役割は広がっています。合併時は職員約1300人で予算530億円の事務・事業等を担っていましたが、現在は職員約980人で令和8年度予算は約770億円となり、行政の仕事は量・質ともに大きく変化しました。さらに若者が仕事に求める価値も多様化し、地

方公務員のなり手不足が全国的な課題となっています。

私は、安心して暮らせるまちは、市役所だけで創るものではなく、市民との信頼と支え合いの中で育まれるものだと思います。だからこそ、市民の皆さんと「どのような職員であってほしいか」という思いを共有したいと考えています。

「いま動く、わたしが創る、だからもの」が示す職員像。それは「いま動こう」「自分たちのまちは自分たちで創ろう」と市民と共に一歩踏み出せる職員、共に創り出したものを「宝物」と感じられる職員です。職員が安心して働き、誰かの役に立つ喜びを実感するとき、彼らは成長し、本来の力を発揮します。

4月には43人の新たな職員が入庁する予定です。これまでの歩みを受け継ぎ、新しい時代を切り開く仲間として、市民の皆さんと思いを一つにしなが、未来を支える存在へ成長することを心から願っています。



大クスノキの下から

第55回

「いま動く わたしが創る たからもの」

市長 草地博昭